

レイモン・ペイネの物語性溢れるバンド・デシネ風の表現展開、文字を必要としない視覚詩的な叙情感、戦後社会へ向けた風刺的意味合いは、通常の絵画としての領域を超えていきました。新聞や雑誌、童話の挿絵として、時計や日用品などのプロダクトデザインとして、そしてリトグラフという20世紀の新たな芸術形態として、ペイネの絵は世に出て行きます。しかし忘れてはならないのが、この世にはペイネ自身が描き下ろした“原画”が存在するという事です。

ペン画によるモノクロームの世界観は、最もシンプルな絵画表現です。しかし画面のインクの光沢感や重ね塗りされたことによる盛り上がり、そして筆跡からは原画であるからこそその迫力と緻密さを感じとることができます。そして鉛筆による下描き線や、プロットの境界線、走り書きなどは“仕事”としてのリアリティを表しています。

本展ではレイモン・ペイネの一人娘であり、当館名誉館長のアニー・ペイネ氏より直接お借りした30点の原画を中心に、当館所蔵の作品を加え、「Peynet's Drawings」すなわちレイモン・ペイネ直筆の絵画を紹介します。また、ペイネの代表作「恋人たち」のシリーズが生まれる以前、戦後社会へ向けた風刺的に、最初に描かれた“恋人たち”の絵画を特別に展示します。



《無題》「嗚呼、もう夜中の12時15分だ。君といるとなんて時間が過ぎるのが早いだろう。」  
Raymond Peynet, 月夜 ©ADAGP.Paris&JASPAR.TOKYO.2018



《無題》時計製作のための下絵  
Raymond Peynet, 時計 ©ADAGP.Paris&JASPAR.TOKYO.2018



《無題》「警察官—詩人」  
Raymond Peynet, 車 ©ADAGP.Paris&JASPAR.TOKYO.2018



Portrait right:ADAGP&SPDA.2018

## レイモン・ペイネ (1908~1999)

フランス、パリ出身の画家。“愛と平和”を主題に生涯創作を行いました。代表的なシリーズ「恋人たち」は戦後当時の世相を反映しつつも、男女のロマンスが描かれます。ペイネの描く、時に可笑しく、時に切なく、そしてどこかエロティックな恋人たちのドラマは、広く大衆文化に溶け込んでいきました。



## レーモンド建築「夏の家」

“日本近代建築の父”と評される建築家アントニン・レーモンド。1933年、南軽井沢の地に彼自身の別荘兼アトリエとして建てられました。その後、保存・管理のため移築され、現ペイネ美術館としてその姿を留めます。外観のみならず内部の柱構造や間取り、二階へと上るスロープなど、特徴的な建築様式がご覧になれます。

## 特別イベント パペットのウェルカムパフォーマンス 9月9日(日)

ペイネ美術館を、タリアセンの園内を、ペイネの“恋人たち”のパペット（操り人形）が自由に歩き回ります。  
【場所】ペイネ美術館内、周辺にて【時間】10:00~14:30【料金】観覧無料【操演】YUKI☆PUPPET WORKS



## ペイネ美術館

【開館時間】9:00~17:00

【料金】大人900円 小中学生500円(軽井沢タリアセン入園料含む) 小学生未満無料  
軽井沢高原文庫・深沢紅子野の花美術館とのセット券 大人1500円 小中学生800円 各種割引あり

【交通】《鉄道》軽井沢駅(JR北陸新幹線/しなの鉄道)または中軽井沢駅(しなの鉄道)下車  
タクシー約10分、町内循環バス「塩沢湖」から徒歩約1分または「風越公園」から徒歩約12分

《自動車》上信越自動車道「碓氷・軽井沢I.C.」から約15分または「小諸I.C.」から約30分

【休館日】7月10日(月)、10月25日(木)、12月1日毎週火水木曜日、年末年始(お問合せください)  
〒389-0111 長野県北佐久郡軽井沢町大字長倉217(軽井沢タリアセン園内)

tel.0267-46-6161 Email taliesin@karuizawataliesin.com http://www.karuizawataliesin.com

